

38億年の総括から考える人間哲学 『人として大切なこと』



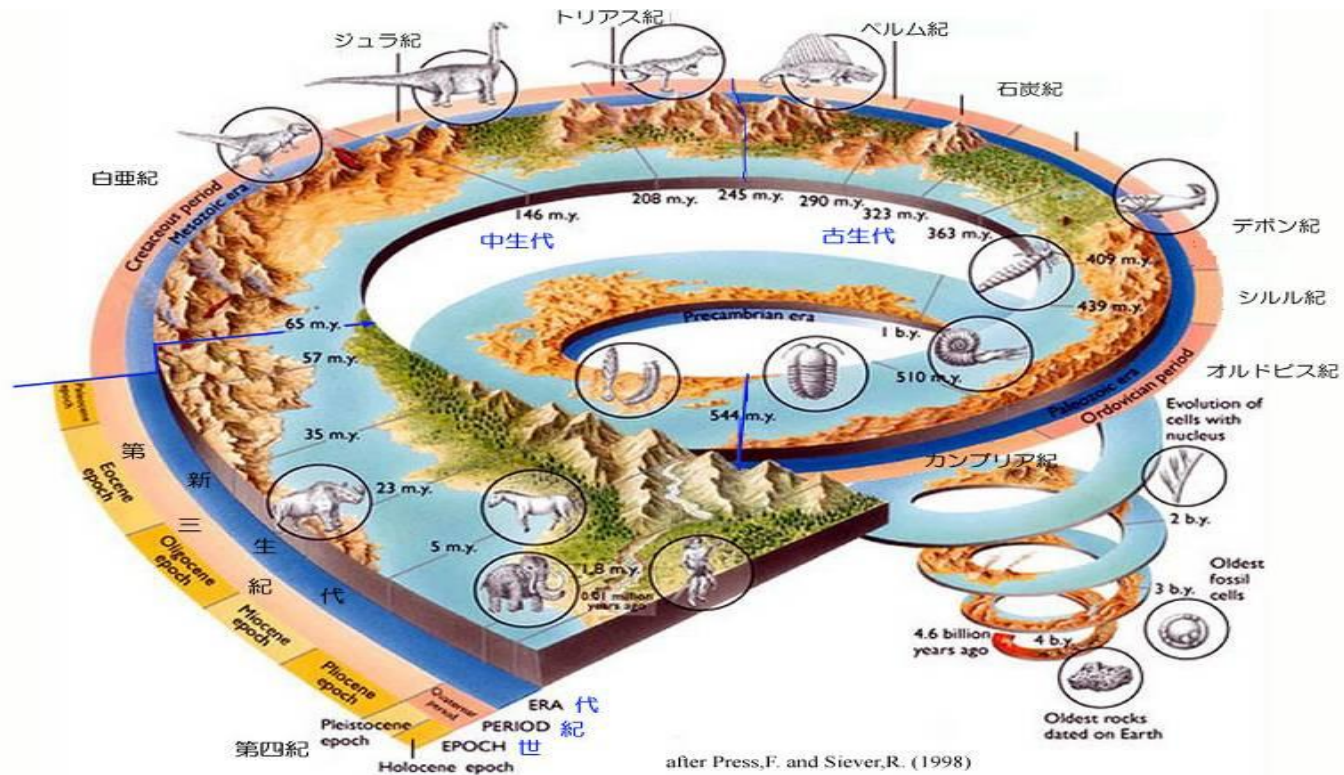
現生人類の共通の母と考えられる『DNAイヴ』想像図

伊豆ユネスコクラブ 代表幹事

小林 恵 智

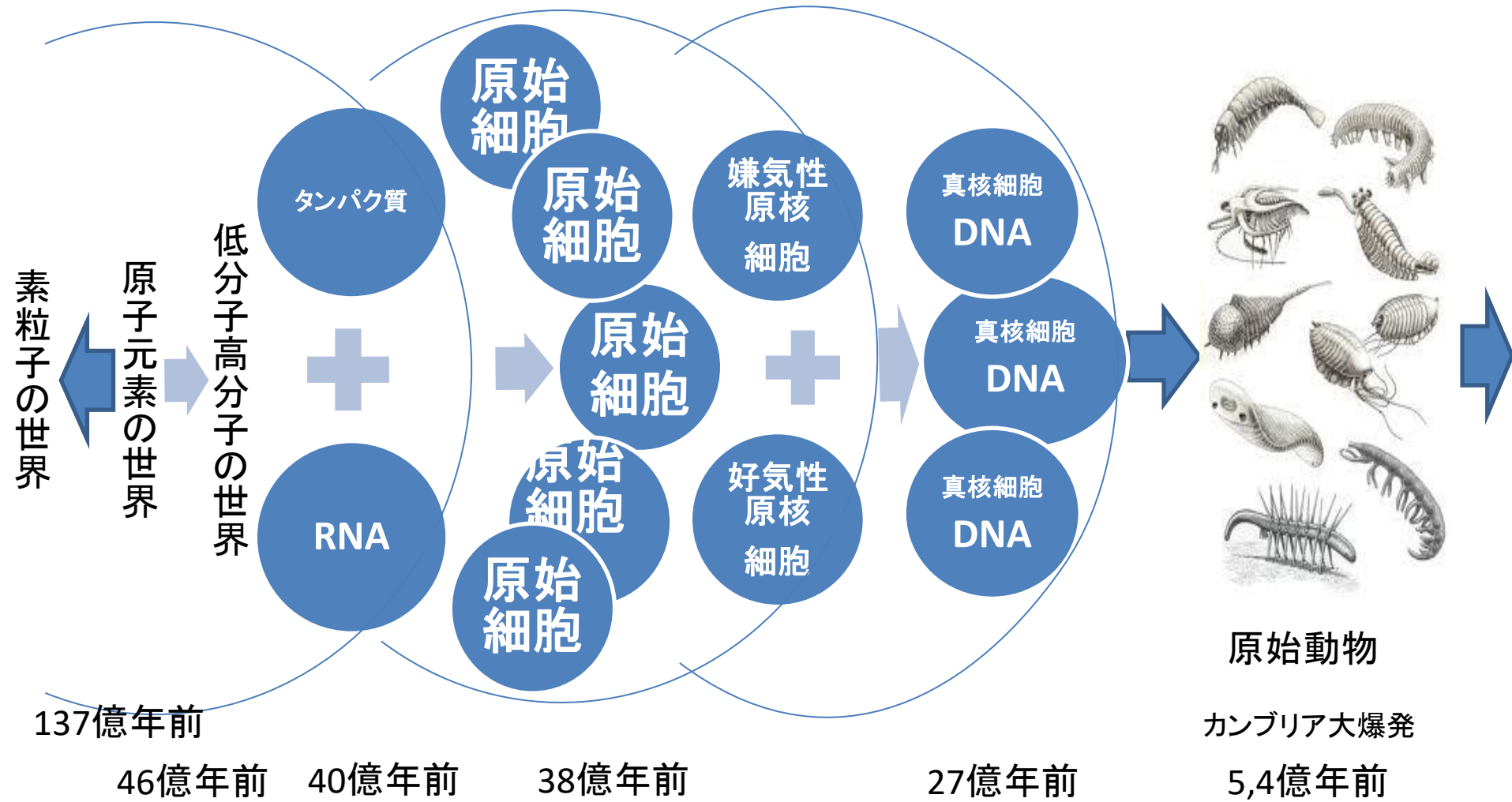
(教育学博士・経済学博士)

誰にも137億年の過去と無限の未来がある



現在の宇宙は、137億年前に出来て、1000億年後の消滅する1000億個の銀河から成り、その一つの129億才のなる1000億個の恒星から成る『天の川銀河』の一つである太陽系の第三惑星『地球』には、46億年の物質の歴史と、38億年の生命の歴史があり、現生人類には20万年の歴史がある。

空・無・物から生命へ

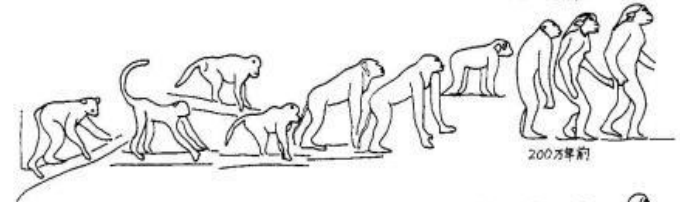


私の年齢は38億66才。 それは・・・『DNA』に書かれていた。

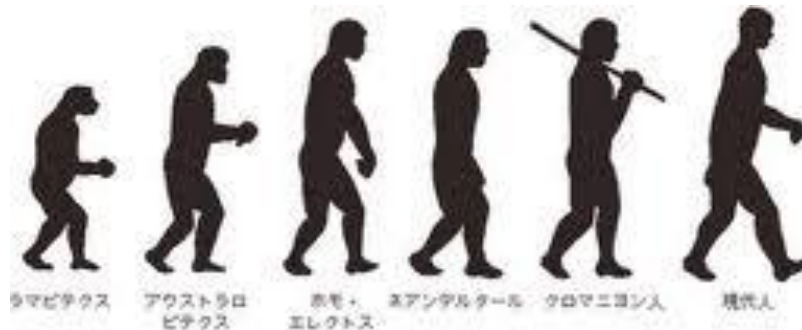
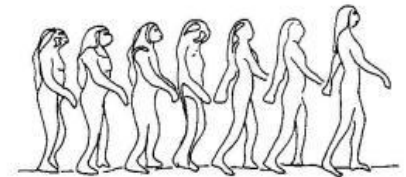


ブルガトリウス

人の祖先 2億2000万年前のMammalia (哺乳類)



2万年前人間の時代に！



猿人→原人→旧人→新人、20万年前に現代人の祖先DNAイヴの一人が誕生→ 70億人の内の一人としての今

反戦・平和を考える

—戦争が無ければ、平和なのだろうか?—

2017年11月16日

伊豆ユネスコクラブ 小林恵智

はじめに

●哲学の定義は、哲学者の数だけある。

『哲学』とは、行為として『根本的な問い』に答えを出すという事は本より、日常の浅慮の結実として表面的な意味や意義など、鵜呑みにし、思い込んでいる「あらゆる概念、見解、意味、意義、価値」を自ら排し、原語(基となる表現)を徹底的に分析し、言明の真の意味を立証し、「究極の結語」へ導く手段であると、私は考える。

例えば、戦争と平和、乃至は幸せなど、善悪や正否の基準となる状態や現象は、慣習的に鵜呑みにされているが、それらをゼロベースから問い直し、『事実と論理』のみを拠り所に、その意味を再定義し、その現象の根本的な原因を求め、現代的行為である経済・経営・教育・生死といった概念と関連付け、解釈された現実の素因である「事実」から目を離さず、「世界のあるべき姿」に向けて為すべきことを立案し、高く掲げ、絶えず反芻しながら行動し続けられる力の源泉こそが、「哲学すること」の目的だと私は考えている。

『哲学する事』、それはあらゆる行為を動機づけ、人生の活動の原動力である。

“戦争”と“平和”について哲学しよう。

● 足るを知らない「過大な欲求」が、羨望を通じて他者との対立を生み、競争が紛争へ、そして戦争へと発展し、報復心を潜在化させくりかえすのが戦争の真実である。

● 基礎科学の進歩と己事究明の習慣化を通じ、偏った権力を排し、『自利利他』の日常的な実践なくして、戦争や紛争、似非の平和を超えた真に「安寧なる世界」は築けない。

「戦争を放棄する」だけでは不十分であり、
「戦争を根絶させる」のが私たちの使命だろう。

平和を希求し願うだけではなく、反戦に繋がる
日常活動を実践しよう。

●我々は人間は、自然や他の生命の支配者ではなく、
森羅万象の一部としての現象であり、物理的・心理的・
社会的破壊は『自刃行為』であり、文明と文化の進歩
の調和こそ“あるべき姿”である。

●自然の価値を机上の空論ではなく、体験を通じて自
立し、自らの生きる智恵の源泉として、森羅万象と己の
分離という二項対立から自らを解放しなければ、誰でも
例外なく己の人生の唯一の主人公である己を成長させる
ことはできない。

『“戦争”をしない、させない心』を育てる
ため、我々がすべきと考えている事。

伊豆ユネスコクラブでは、『自然との共生
体験』の日常化こそが、生命と自然(環
境)を大切にする心を育み、自然を破壊
せず、等価交換的利用をする技術を身に
付けるため、自然と戯れる場所・機会・技
術を提供し続けます。

伊豆ユネスコクラブの宣言

私達は、この地球を宇宙の極小の一部でありながら、全人類の共有財産である乗り物と位置づけ、極度な資源依存の生活様式を改め、自然と協調し共生する実感が他(者)との消耗戦に繋がる「競争」を成長の糧としている現代を見直し、「自分経営」、即ち、己の個性・資質(強み)を発見し、自覚して活かし、自らを日々の営みを通じて成長させ続け、人生の明確な目的、具体的な目標を掲げ、持続可能な「紛争や戦争の無い」公正で公平な社会を実現させようとする志、意欲育み、森羅万象との共生に関する知識や技術を身に付けさせ、それを世界に普及できる人間を自ら率先して育ててゆきます。